

〔恒例公事錄 四十四〕大福茶分配之儀

十二月中旬、大福茶御用清御文匣二番二合、御獻奉行申出ノ旨、表使ヲ以御内儀へ申込、右二合出
サル、○中御内儀ヨリ、御獻奉行へ御祝酒出サル、

重肴一組 鉢肴二ヶ 錫二對

〔言經卿記〕慶長八年三月一日戌午、六宮御方妙法院殿ヨリ御還御、御里坊ニ御入了、御樽二、重箱進
入了、

〔時慶日記〕慶長八年十二月十九日亥刻計ニ曇花院殿燒失、廿日、曇花院見廻間鍋二ヶ、重箱三重、
盃二ヶ進上候、暫伺候シテ歸、

〔三省錄 飲食〕水府家士雨宮又右衛門語りけるは、むかし仙臺侯の御茶の水堀割の時、義公より御
尋として贈り給ふ品重二重なり、一重は芋の煮ころばし、一重は黃粉むすびの御見舞なりと、六
拾万石餘の諸侯三拾万石餘の御方よりの音物贈答、かゝるおもむき、今を以見れば實とはなし
がたくおもふなり、

〔料理獻立〕加茂祭御膳御物數如尋常 但夕御膳之節略○中 御膳御重詰

一重 小くしたい大板か

一重 御にしめ

一重

くわひ

子つくね

こんぶ

れいも

一重 小しきめぜんまひ

申鉢ニ一夜すしきくらげもじぐらうど

うど

一重 御まな前同斷

一重 にじめ前同斷

一重 一夜すし前同斷

一重 さばのまし、たて、

御靈會御膳朝夜如御常

夕御膳二汁八菜

但昨卯年、被召上候品○中略

御膳御重詰